
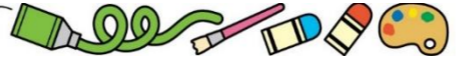


10月 ぽっかぽか りすぐみ

夏の暑さも日に日に和らいできましたね。だんだんと涼しくなり水遊びから外遊びへと少しずつ移行した9月でしたが、10月はたくさん外遊びを楽しみたいと思います！砂や土で汚れたり、子どもによっては汗をかいたりすると思いますので、着替えのご用意などをお願いいたします。

 **子どもの力を信じる** 
りす組になって早いもので半年になります。子どもたちの成長もめまぐるしく、できることもどんどん増えています。毎日の生活の中で繰り返し伝えていること、大切にしていることが積み重なっているなあと感じています。子どもの持つ力をしっかり引き出すために、成長の見通しを持ちながら日々の保育を行っていますが、今月は私たちが特に大切にしていることをお伝えさせていただきます！

【アイコンタクトを大切に！】

アイコンタクト＝目を合わせるという意味にですが、保育の中で子どもと目を見て話をするときには「お互いが相手の存在を認識し、見合っている状態のこと」を言うのだと感じています。目があうから相手の視線の先にあるものを追ったり、相手の目から気持ちや意志を読み取ろうとする、読み取ることができるのだと思います。保育の中で大人がアイコンタクトを意識することで、子どもは話をするときには自発的に大人の目を見る、見ようとするようになりました。「目は口ほどにものを言う」というのはその通りだなと思います。コミュニケーションはもちろんですが、心と心をつなぐ大切なポイントがアイコンタクトだと感じています。

【話を聞く】

最近特に感じるのですが、子どもたちは大人が話しをすると「お！話してるな」と視線と意識を向けてくれます。話を聞くと一言で言っても、「大人の」話を聞く。「子どもの」話を聞く。の2パターンがあります。大人の話聞くことはもちろん大切ですが、まずは子どもたちの話をしっかり聞くことを大切にしてきました（現在進行形でもあります！）。「あなたの話を聞いてるよ。だいじょうぶだよ。」の関わりを繰り返すことで、「聞いてくれる、分かってくれる人」だと感じられて安心と信頼関係ができていきます。それがあって「〇〇さんが話をしているな、なんだろ。」と子どもたちから自発的に大人の話聞く姿勢が出来ていき、今の子どもたちの姿に表れているのだと思います。

【待つ】

「待つって難しいな。」といつも感じます。意識して待つ事をしないと「ほら、早く。やっちゃんよ」となりやすいです。子どもたちの様子を観察したり、見守っていると「考えてるのね」「一生懸命、自分でやろうとしてるのね」が伝わってきます。大人が意識的に待つことで、子どもたちは安心して今していることに集中し、満足感、達成感へとつながっていきます。では反対に子どもはどうでしょうか？大人は「待っててね」と何かを準備をするときや、順番を伝えるときなどに言うのですが、「待つ」＝「その後楽しいことがある、自分のうれしいことがある」「待っていたらやれる！」とわかると、大人を見ながら（なんだろ？って考えたり、想像もしているのかな？）待つことができるようになります。待つ＝約束をしていることでもあるので、必ず守ることを意識しています。

これらの「アイコンタクト」「聞く」「待つ」が子どもの思考力の基礎へとつながっていきます。大人が子どもに対して意識して関わっていく事で、満たされた思いが自己肯定感をはぐくみ、健全な仲間関係の発展につながっていきます。



8月、9月は色や感触を楽しむことをたくさんしました。

写真は、絵具を使ってペタペタ！画用紙につけて魚を作る子どもたちの姿です。子どもによって豪快にいく子、慎重な子、ゆっくり自分のペースでやる子。16人16通りの魚ができました！

